

平成29年度

| No. | 区分 | プロジェクト名 | 本学担当者 | 共同研究機関・担当者 | | 研究内容(連携事業内容) |
|-----|----------|--|--------------------------------|--|--|---|
| 1 | 総合教育センター | 幼小連携に関する研究 | 菅 眞佐子 | 総合教育センター 所長 佐敷 恵威子 | 主査 加藤 由紀 研究員 村地 和代 | 今回の幼稚園教育要領、小学校学習指導要領の改訂により、幼稚園教育要領においては「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目が示され、小学校学習指導要領においてはその姿を踏まえて指導を工夫することとなった。これを踏まえ幼少の円滑な接続を具体化する接続期の教育カリキュラムを作成する。 |
| 2 | 総合教育センター | 授業の事例検討による主体的・対話的で深い学びの実践研究 —児童生徒の能動的で深い学びを支える要素」と条件」の追求— | 堀江 伸 畑 稔彦 | 総合教育センター | 研究指導主事 中川 恵美子 研究員 楠本 晃久 研究員 藤岡 香織 | 主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、教師たちの授業力を高めるとともに、児童生徒の学びを質的に豊にしていける可能性に迫る。 |
| 3 | 総合教育センター | 滋賀県学校安全教育推進プロジェクト | 藤岡 達也 | 滋賀県教育委員会 事務局体育課 | 保健安全・給食係 指導主事 北川 英樹 | 滋賀県内の学校安全を推進するために教育内容、方法、システムについて滋賀県内の取組事例の収集・分析等をもとに各学校への指導・支援を通してアクションリサーチ的に探る。滋賀県の各地域や学校のおかれた自然環境や立地条件を踏まえながら各学校・地域の実態に応じた学校安全の在り方を明確にし県下における学校安全の推進を図る。 |
| 4 | 総合教育センター | 情報教育に関する研究 | 教授 松原 伸一 | 総合教育センター | 研究員 野坂 健太郎 | 滋賀県総合教育センターの研究事業を連携し「主体的・対話的で深い学びを見据えたアナログ的な体験から始める小学校におけるプログラミング教育—プログラミングの体験を効果的に入れた授業実践を通して—」に関してを行う。 |
| 5 | 総合教育センター | 理科プロジェクト研究 | 藤岡 達也 | 総合教育センター | 研究員 堀 道雄 | 本事業は滋賀大学と滋賀県総合教育センターとの連携事業の一環で滋賀県総合教育センターにおいて取り組みを進めている県内10名の小・中・高の教員と理科における実験・観察を取り入れた「主体的・対話的で深い学び」を追求するものである。当センター及び関係者とともに指導法・評価の工夫に関しての研究を行う。 |
| 6 | 総合教育センター | 理科教育に関する研究 | 滋賀大学 教育学部 准教授 加納 圭 | 滋賀県総合教育 センター | 研修指導主事 藤村 佑子 | 「レディネス学習」を取り入れ、探究的な充実を図ることで中学校理科の授業改善推進し生徒の科学的探究するために必要な資質・能力を育成する。 |
| 7 | 甲賀市教委 | 授業改善で生み出す主体的な学び ～予習を活かし、聞く、話す、書く力を 高める指導方法の工夫～ | 教育学部 (国語教育) 准教授 長岡 由記 | 甲賀市立甲南第一小 学校・希望ヶ丘小 学校 校長 福永 沙知子 校長 青木 秀樹 | 甲賀市教育研究所 課長補佐 太田 知加子 | 国語科の学習において「予習」を活かすことで児童主体の課題解決型の授業改善を進め、実証授業を通して「聞く・話す・書く力」を高める指導方法の工夫について検証していく。 |
| 8 | 甲賀市教委 | 「国語科における授業分析による授業改善」～子どもたちの確かな力が つき考える楽しさを味わえる授業作り ～ | 教育学部 (国語教育) 准教授 長岡 由記 | 甲賀市教育研究所 | 甲賀市教育研究所 研究員 村山 雅彦 | 国語科の学習において子ども自らが課題意識をもって考え確かな力を付け考える楽しさを味わえる授業を作るために授業分析による授業改善を行う。 |

| | | | | | | |
|----|-------|--|-----------------------------|--|---|---|
| 9 | 甲賀市教委 | 「算数・数学における授業分析による授業改善」～子どもたちの確かな力がつき、考える楽しさを味わえる授業作り～ | 教育学部 数学教育 講師 渡邊 慶子 | 甲賀市教育研究所 | 甲賀市教育研究所 課長補佐 太田 千加子 | 算数・数学科の学習において、確かな力が付き、考える楽しさを味わえる授業を作るために、授業分析による授業改善を行う。 |
| 10 | 甲賀市教委 | 言語活動を通してともに学び合う子どもの姿をめざして ～算数科を窓口にして自分の考えを表現しなくなる授業づくり～ | 渡邊 慶子 | 甲賀市立甲南中部 小学校 | 教諭 上杉 伸彦 | 友達の考えを聞き、自分の考えを表現し、ともに学びあう児童の育成をめざす算数科授業づくりを研究の目的としている。 |
| 11 | 大学 | 地域協働の中で「なかなかやるやん」と思える生徒を目指して | ○若林 千春 福谷 芳恵 成田 豊 | 唐崎幼稚園 園長 村上 淳子 | 保育主任 鈴木 愛 | 自閉症スペクトラムの自己肯定感を育むため地域協働の視点をもって地域の幼稚園児とかかわる中で自分たちも「なかなかやるやん」と感じられる中学部生徒の姿を目指す。幼稚園児にとっても遊びを広げる機会となり地域とかかわる中でこそ得られる相互の学びお深まりの様子を捉え、よりよい教育的支援の方法を探り検証する。 |
| 12 | 大学 | 滋賀県における幼児の運動能力に関する調査 | 奥田 援史 | 滋賀県教育委員会 スポーツ・健康課 | 指導主事 内藤康司 | 料をえる事 調査対象：滋賀県内の幼稚園（保育所・認定こども園を含む）4、5歳児 クラスの幼児対象。昨年度は県内95園、約3,000人のデータ を得た。 運動能力テスト(6種目)実施する。 |
| 13 | 大学 | 「声」と「言葉」そして「歌」…表現の可能性と充実を目指して ～地方公共ホール発信、「声」でつなぐ～ | 渡邊 史 畑 稔彦 | 豊郷町立 日栄小学 校 | 教諭 岸邊 知子 | 教育現場を中心に表現手段として「声」の再確認と積極的活用を提案を行う。人間にとって汎用性の高いコミュニケーションツールである。「声」「言葉」それを最も高度に用いた芸術活動である「歌」とおし「歌唱」に至るステップを実地に経ることにより自ら「表現」の可能性及びその効果を体感する。 |
| 14 | 大学 | 通級指導教室等の子どもに対する協調運動面の指導に関する実践的研究 | ○川島 民子 奥田 援史 | 草津市立洪川小学校 津級指導教室 草津市立南笠東小学 校通級指導教室 草津市立山田小学校 通級指導教室 | 校長 宮地 均 通級担当 太田 恵 校長 山崎 賢 通級担当 掛田 みちる 時岡 善也 通級担当 小川 絹子 | 不器用で運動が苦手といわれる発達性協調運動障害の可能性をもった通級指導教室等の子どもを対象に通級指導教室での学習活動について事例を通して検討し協調運動面を向上させる学習活動、指導内容・方法を明らかにする。 |
| 15 | 大学 | 滋賀県内の技術科教員の自主的研究会和大学との連携によるものづくりの教材開発 | 岳野 公人 | 滋賀の技術を語る会 (滋賀県内の中学校技術 科教員有志の研究會) | 「滋賀の技術を語る会」代 表 伊香立中学校教諭 光橋 正人 事務局附属中学校 宮内 念 | 教材開発や指導法検討について勉強会を開催している。大学との連携によって、滋賀県の技術科教育の質の向上を目指したもプログラミング教材の開発と指導法の検討を行うことに取り組むことを目的とした。 |
| 16 | 大学 | ロボット教材を利用したプログラミング学習の教育効果に関する研究 | 岳野 公人 | 草津市立老上中学校 | 校長 辻本 長一 教諭 斎藤 英樹 | 草津市は、ICT推進地域として先駆け取組み多く実施している。本研究では、それらのロボット教材の教育効果に着目し質問紙法による量的な分析を試み、学習者の実態を明らかにすることを目的とした。 |

| | | | | | | |
|----|----|---------------------------------|-------------------------|-------------------------------------|--|---|
| 17 | 大学 | グループワークを軸にしたコミュニケーション能力を育む授業の研究 | 大嶋 秀樹 | 滋賀県立甲南高等学校 | 校長 中辻 仁史 教諭 徳永 博紀 教諭 佐野 義則 | 他者と積極的にコミュニケーションを図りながら課題に取り組もうとする態度を養う学習活動の研究を行う。 英語に対する苦手意識を緩和しながら楽しく協力できる活動の研究を行う。 |
| 18 | 大学 | 通級指導教室における効果的な指導・支援のあり方について | 窪田 知子 | 高島市立今津東小学校 | (校長) 清水 保彦 (通信指導教室担当教員) 小川 康子 | 平成29年から開設された高島市立今津小学校の通級指導教室において子どもが学習上で経験しているつまずきや学校生活の多くを過ごすことになる通常学級において経験している困難さに着目し自校通級を含めた効果的な指導および支援のあり方について検討する。 |
| 19 | 大学 | 子どもの造形活動の観察と理解 | 世ノ一善 藤田 昌宏 村田 透 | 草津市立玉川小学校 | 校長 片山 義久 (図形クラブ顧問) 河村 佐知子 太田 静香 | 数年来、草津クレアホールで実施している滋賀大学卒業制作展にリンクさせるかたちで地元の玉川小学校との造形活動を通じての連携に取り組んでいる。連携先小学校の図画工作の授業の見学や図工クラブのサポート活動を通じ子ども達の造形活動時の協働性や相互行為を考え学校以外での造形活動を模索・実施し教育現場に留まらない子ども達の活動の理解を目的とする。 |
| 20 | 大学 | コミュニケーション能力の基礎を育む指導を求めて | 大嶋 秀樹 | 滋賀県小学校教育研究会 外国語活動部会 | 部会長 高原 透 (南郷小学校長) | ・小学校外国語活動における大学との連携の在り方を探る ・コミュニケーション能力の基礎を育む小学校外国語活動の授業研究 |
| 21 | 大学 | 子どもに関わる若手専門育成のための研修・教育プログラムの開発 | 大平 雅子 | みのり保育園 園長 すぎのこ保育園 園長 | みのり保育園 園長 ラッドキ岸本妃咲 すぎのこ保育園 園長 柴田 絢子 | 近年子どもを取り巻く環境は一刻と変化しており、それに付随して子どもの健康課題も徐々に変化している。多様化・複雑化する子どもの現代的健康課題に対処するためには、専門的な視点や知識に基づいた対処が必要である。「子どもの専門職」に対して健康課題に対処するための研修・教育プログラムの開発を目指す。 |
| 22 | 大学 | 美術科における生徒の主体的な学習を促す授業改善 | ○新関 伸也 村田 透 | 大津市立志賀中学校 | 校長 植田 公威 教諭 堤 祥晃 | 生徒が思いを持って主体的に表現活動に取り組むためには、どのような条件が必要かを検証し授業改善を行う。 |
| 23 | 大学 | 学校アート化計画『グリーンちゃんがやって来た』 | 藤田 昌宏 (美術教育) | 草津市立志津小学校 大津市立青山小学校 滋賀大学附属小学校 | 青山小 中川 理恵 志津小 中西 さおり 附属小 山田 和美 木村 仁 小橋 良平 | 子どもたちが多くの時間を過ごす学校という空間をアート作品で“異化”します。アートが学校という日常空間を変容させ、学校探索から学校の怪談？へと、子ども等が身の回りの様々な事象を再発見することを促します。そして、そこから生まれる色々な反応に呼応する形で教員が日常の中の教科に留まらない学びに展開するという、アートの可能性を本プロジェクトで模索します。 |
| 24 | 大学 | 地域協働の中で役立つ自分を感じる生徒を目指して | ○若林 千春 堀口 毅 木村 明子 | 唐崎保育園 園長 大西 知子 | (保育士) 青山・今江・徳永 | 自閉症スペクトラムの自己固定感を育むために社会や人との関わりの中で役割を果たし、役立つ自分を感じる生徒の姿を目指し高等部職業の授業を通して地域協働に組む。そのために必要な地域と学校の関係や教育的支援の方法を探り検証していく。 |
| 25 | 大学 | 幼児の好奇心や探究心を育むための造形表現活動実践 | ○村田 透 | 大津市立石山幼稚園 | 園長 岸本 光香 主任 岡田 美由紀 | 幼児期は「生きる力の基礎(感性、好奇心、深究心思考力など)」を育む時期と位置付けられている。本研究では幼児の興味関心や発達などの実態をふまえながら特に「好奇心と深究心」に焦点をあてて造形表現活動の題材を研究し可能性と効果を検証する。 |

| | | | | | | |
|----|----|---|----------------------------------|--------------------|--------------------------------------|--|
| 26 | 大学 | 中高一貫教育校における発信力を高める授業の在り方 | 大嶋 秀樹 | 滋賀県立水口東中学校・高等学校 | 校長 田邊 雅之 教諭 伴野 恭士 教諭 山下 泰世 | 友達の考えを聞き、自分の考えを表現し、ともに学びあう児童の育成をめざす算数科授業づくりを研究の目的としている。 |
| 27 | 大学 | 思考力・判断力・表現力の育成～わかる・できる授業を目指して～ | 畑 稔彦 | 豊郷町立豊日中学校 | 校長 高畑 教諭 北村 俊 | 急速に社会が変化する中、中学校を卒業した生徒たちが自らの目標に向かってたくましく生きていくために幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断をしどのように場面であっても表現力を中学校段階で身につけさせたい。そのために学び合い高め合う環境をつくり各教科において基礎学力の向上と自ら課題を解決する思考力・判断力・表現力の育成を図る。 |
| 28 | 大学 | 若手・中堅教員を育てる美術科教材開発プロジェクト ～チームで考える授業作り～ | ○新関 伸也 | 滋賀県中学校美術教育連盟 | 委員長 伊庭 照実 研究部長 堤 祥子 事務局長 伊丹 賞子 | ★以下の目的で中学校美術科における授業力向上のためのグループ別研究会を行う。 ・公開授業者だけでなく、多くの教員に学びが共有できるシステムをつくる。 ・複数教員で授業づくりをすることで多角的、客観的な教材研究協議が深まる ・指導案作りから複数教員が関わることで公開授業の研究協議がふかまる。 |
| 29 | 大学 | 交流及び共同学習のあり方について —特別支援学級に在籍する児童に有効な支援とは— | 白石 恵理子 | 草津市南笠東小学校 山崎 賢 | 教諭 岩本 宏子 教諭 南 佐和子 | 草津市立南笠小学校では今年度新たに身体虚弱児学級が新設され看護師の付き添いのもと日々の学習が行われている。担任としては、よりよい教育課程や教育環境を整えていきたい思いをもちつつ試行錯誤の状態である。そこで①身体虚弱児学級で学ぶ児童の課題えおみとり、実践が児童にあったものであるかを検討していくこと②障害のある子にとっても通常学級に在籍する児童にとっても有効な交流及び協同学習のあり方を検討することの2点を目的とする。 |
| 30 | 大学 | 石山っ子わくわく親子で畑体験隊 | ○森 太郎 與倉 弘子 久保 加織 石川 俊之 | 大津市石山公民館 橋本 美恵子 | 石山公民館生涯学習専門員 松 文郎 | 生産物の調理・試食、糸つむぎ、染色、紙すきという一連の工程を経験するプログラムを開発し、実践、検討する。 |

| | | | | | | |
|----|----|--------------------------------------|------------------------------------|------------------------|---------------------|--|
| 31 | 附属 | 小学校理科天文分野における児童の思考力や活用力を高める教材開発 | ○大山 真満 | 滋賀大学教育学部附属小学校 神 直人 | 教諭 柳 哲平 教諭 板谷 千裕 | 小学校理科天文分野における児童の思考力や活用力を高める教材を研究開発し、その教材の有用性の検証と教材を活用した指導法の開発を行う。また、教材を通して指導した児童の思考力や活用力の高まりを検証する。 |
| 32 | 附属 | 3歳児にふさわしい保育環境開発プロジェクト | ○塩見 弘子 村井奈津美 | 大津市逢坂幼稚園 | 園長 井上 真矢子 | 昨年度は大津市より3年保育の視察を重ね3歳児の実態に合った指導計画・方法の開発に取り組んだ。3歳児の発達、4.5歳児の発達とはことなる部分も多く、その特性を踏まえた保育環境が必要になる。3歳児にふさわしい保育環境の開発をめざしていきたい。 |
| 33 | 大学 | パフォーマンス評価による学習による学習言語の力を伸ばす算数科の授業づくり | ○岸本 実 神 直人 畑 稔彦 渡邊 慶子 | 長浜市立長浜北小学校 校長 平井 敏孝 | 教諭 中島 大理 | 算数科の授業において、パフォーマンス課題に取り組むことにより、学習言語としての日本語を活用して思考力・判断力・表現力等を伸ばす授業づくりを進める。そのことにより外国人児童等の特別な配慮を必要とする児童のつまずきを早期に発見し、すべての児童の学習言語の力を伸ばすための、つまずきを活かして回復する教科指導法を開発する。 |
| 34 | 大学 | 小学校における予防教育プログラムの開発・実践 | ○芦谷 道子 (准教授) 中川 栄太 (大学院生) | 甲賀市立伴谷東小学校 中嶋 政二 | 伴谷東小学校教諭 村田 吉美 | 滋賀県より「生きる力を育むモデル校」に指定されている伴谷東小学校において「生きる力担当」の教諭と連携し、予防教育プログラムの開発、実践を行う。「TOP SELF」プログラムの開発を行っている鳴門教育大学にて指導、助言を仰ぎ伴谷小学校の現状に合ったプログラムを開発し、2学期以降、全ての学年において複数回に亘る継続プログラムを実施し、効果評価を行う。 |